



開物成務

令和8年6月18日(木)発行

校長 大越 泰子

5月6日は、校内では様々な活動が行われています。5月中旬には、6年生が日光に修学旅行に行ってきました。日々の授業はもちろん、ゲストティーチャーを招いた授業や、校外へ出たの活動は、感覚や感動を伴い、より子どもたちの記憶に残る学習となることでしょう。

また、現在校内では生き物探しが盛んです。虫かごを手に、さまざまな生き物をさがしては、観察している姿をよく見かけます。小さい生き物の中にも命を感じ、愛おしく世話している様子は、何ものにも代えがたい命の学習です。

校内研究会 5月19日

今年度、本校では体育科の授業研究を行います。子どもたちに十分体を動かす爽快感を味わわせたい、得意な子も苦手な子も、「やってみたい」と思える授業をめざしたいという願いからです。まずは、先生たち自身が学ぶために、横浜国立大学の梅澤秋久教授をお招きし、実技研修を行いました。2時間弱の研修で、笑顔で汗を光らせ意欲的に活動している先生方の様子から、研究の方向性に確信がもてました。先生たちも良い授業をめざし学び続けています。

6年 日光修学旅行

5月20日(水)21日(木)日光に修学旅行に行きました。近年は学校からバスで、圏央道を使って日光まで行くことができます。初日はお天気に恵まれ、華厳の滝も、男体山もきれいに見ることができました。水不足により、華厳の滝は水量が少なめでしたが、落差97mの断崖と、周辺の柱状節理、そこに飛び交うイワツバメの様子は、華厳の滝ならではの景観で、圧倒されました。おもしろ写真もたくさん撮れました。湯滝、竜頭の滝と、奥日光三名瀑を見学し、それぞれの違いを味わうことができました。クマが心配されましたが、むしろ、サルがたくさんいて、子どもたちは興奮していました。旅館では、大きなお膳でさまざまな料理を味わい、夜は友達とのおしゃべりで各部屋盛り上がったようです。しかし、どこの場所でも、節度をわきまえ、時間や全体を意識して行動している姿がみられ、さすが6年生であると感心しました。あいにく翌日の東照宮は、小雨降る中での活動となり、十分な見学とはなりませんでしたが、「眠り猫、ちっちゃ!」「陽明門の逆さ柱どこ?」「鳴き竜の音、思っていたのと違った。」など、実際に見て聞いて感じた言葉がたくさん聞かれ、よい体験となったことを感じました。お土産店では、「これはお母さんに」「こっちはおばあちゃんに」など、家族のことを考えながら選んでいる様子から、送り出してくれた家族のことを思いやれる子どもたちの優しさも感じました。なにより元気に帰ってきた「ただいま」の笑顔が何よりのお土産ですね。ご協力ありがとうございました。



学校公開&引き渡し訓練

5月16日(土)に行った学校公開には多くの方にお越しいただきありがとうございました。特に1年生にとっては初めての授業参観ですので、子どもたちも朝からそわそわして張り切っていました。児童数の

多い学級では、室内に入りきれずご不便をおかけしましたが、新しい担任との、新しい学級の様子が感じられたら幸いです。また、午後の引き渡し訓練では、お待ちいただいた保護者の方々も「おかしも」の約束を守っていただき、立派な訓練となりました。

租税教室と模擬議会

6年生は、社会科で公民を学習しています。5月22日(金)には税務署の方をお招きして「租税教室」を行いました。1億円分の模擬紙幣が入ったジュラルミンケースを持ってみたり、税金がなくなった世界を描いたアニメを視聴したりして、税金の役割について学習しました。また、6月1日(月)は模擬議会に参加しました。町長や町議会議員の皆さんのご協力により、町議会を体験しました。各クラスで考えた提言を代表者が述べ、それに対し町長が答弁するという実際の議会と同様のやり取りを体験しました。「子どもたちの声を町政に」「ぜひ皆さんの声を聞かせてほしい」という町長や議長の声掛けに、緊張しながらも、次第に思いを伝えていました。こうした議会でのやりとりによって、町政が進められていることを学びました。



4年生 自転車乗り方教室

開成町は自転車の利用者が多いわりに、車道が狭く、危険を感じます。そこで毎年4年生を対象に町が主催して自転車の乗り方教室を開催しています。

はじめに「4月から規則が変わってこと知っている?」と尋ねたところ、多くの子が「青切符」などの規則改正について知っていて、関心の高さがうかがえました。交通指導隊や、松田警察署の方々の指導で実際に校庭の模擬コースで自転車検定を受けました。合格すると「免許証」がもらえるとあって、真剣な表情でした。放課後自転車に乗る時に、今日の学びを生かしていくことを願っています。



あじさい給食

本校では、あじさい祭りが近づくと、給食にあじさいごはんがです。子どもたちにも人気のメニューです。ぜひご家庭でも作ってみて、みんなであじさいの季節を楽しみましょう



材料:米2合、黒米大さじ2、酒小さじ2、みりん小さじ1、塩ひとつまみ、むいた枝豆50g

- ① 米2合にいつもの分量の水を入れる
- ② 黒米大さじ2と酒、みりん、塩と大さじ2の水を入れて普通炊飯する
- ③ 炊きあがったごはんに、ゆでた枝豆をまぜる
できあがり!!

校長室の窓から

担任時代、出張に出た日はクラスに本を一冊買って帰るということをしていました。その流れて、先日横浜へ出張した帰りに本屋で絵本を探しました。そして選んだのは、長谷川 義史作「いいから いいから」です。長谷川氏の絵は特徴的で、ご存じの人も多いと思います。お話は、ある日、かみなりの音と共に、かみなりの親子がやってきました。おじいちゃんとおぼくは、その親子を「いいから いいから」と色々もてなします。しかし、親子はどんどん恐縮し「そこまでしていただくわけには…」と言って、とうとう逃げ帰ってしまいました。どうして? そして最後はどうなったのでしょうか? 私は、このおじいちゃんが言う「いいから いいから」という言葉がとても気に入りました。絵本の帯には作者からの「世界を平和にする本気のあいことば『いいから いいから』」という言葉がありました。

近頃、校内でよく見かける光景が気になっていたのです。人を注意している姿が、とても厳しい。たしかに注意されている人がやっていることは、良くないことです。しかし、それを責めている姿は、とても怖く感じます。「自分は正しいことをしている。」という思いがあるからこそです。正論は人を追い詰めます。逃げ場をなくし、残るのはうらみだけです。そんなとき、時には「いいから いいから これから気を付けて」こんな言葉が互いの怒りをそらし、本来の反省につなげることができるのではないかと思います。子どもたちはどんな感想を持つでしょう。読み聞かせをするのが楽しみです。